

令和7年度学校運営評価について

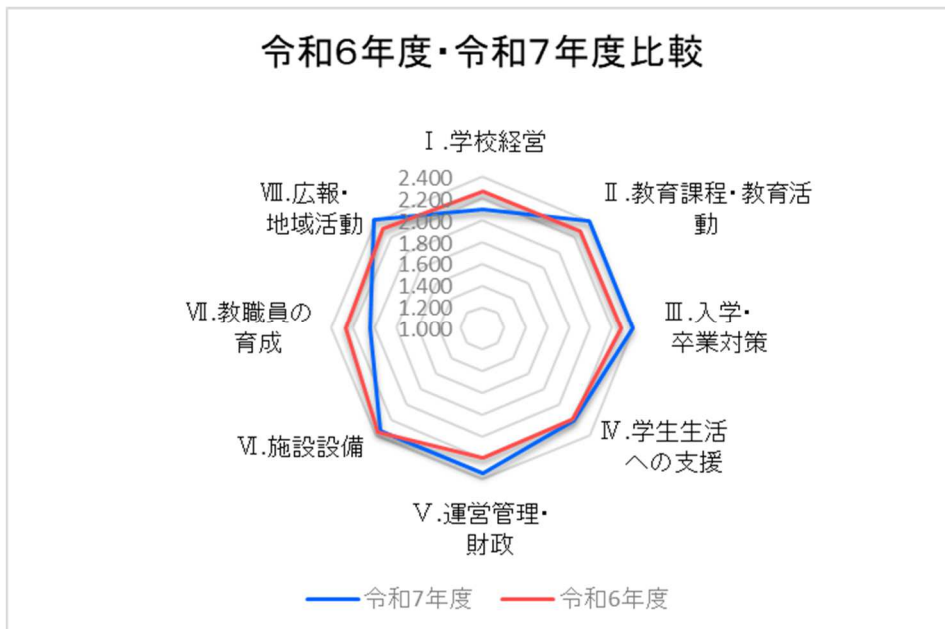
沼津市立看護専門学校

本校は、教育理念として、生命の尊厳といつくしみの心を基盤とした人間性を育み社会に貢献できる看護師の育成を掲げ、看護実践者の育成に取り組んでいます。本校の教育・管理運営の質の維持と向上を図るため、令和7年度学校運営評価（自己点検及び自己評価）を行いましたので、評価結果を公表します。

令和7年度 学校運営評価

評価項目	I.学校経営	II.教育課程・教育活動	III.入学・卒業対策	IV.学生生活への支援	V.管理運営・財政	VI.施設設備	VII.教職員の育成	VIII.広報・地域活動
令和7年度	2.096	2.404	2.397	2.205	2.346	2.338	2.064	2.423

※評価基準は2点を標準としています。



評価項目	自己点検・自己評価の概要	平均点
I 学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ●指定校推薦枠を拡大し、高校訪問等を増やした結果、令和8年度の入学者は定員の30名を確保した。 ●看護師国家試験に全卒業生22名が受験し合格した。 ●就職先は沼津市内77.3%、静岡県東部86.4%、全県100%という目標を達成した。 ●全体としてはほぼ目標を達成したが、3段階評価への移行により表面上、評価は下落している。 	2.096

カテゴリー	自己点検・自己評価の概要	平均値
Ⅱ 教育課程・教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ●臨床判断や地域・在宅医療の内容を踏まえつつ講義や実習を調整し、対応しており、講義・実習終了時や年度末に学生からのフィードバックを受け、全体に還元しつつ、個々の講義は学生の理解度や反応に合わせて修正した。 ●受講態度や試験結果が心配な学生に対し、年次担当教員が早期に声を掛け、学習支援を実施した。また、実習では専門性を活かした配置と病棟配属により多様な疾患特性を理解できるようにし、臨地実習では教員と実習指導者が相談しながら患者選定・指導方法を調整した結果、学科試験平均が上昇した。 ●インシデントが起きた際に、教員間で共通認識を持ち会議で対策を検討し、学生への指導へ繋げている。情報漏洩事案に関して、学生の意識の低さが認められたため、全学年に向けて情報管理講演会を実施し、各学生に自己責任の意識づけを図った。 	2.404
Ⅲ 入学・卒業対策	<ul style="list-style-type: none"> ●入学試験受験者の確保について、高校生の生活を踏まえて説明会の時期・時間を調整するなど学生の獲得に努めるとともに、入学試験対策のため入試改革を合わせて実施した結果、受験生が増加し、定員 30 名の入学者を確保した。 ●国家試験に対し早期からの意識付けを行い、3 年間での対策プログラム策定した後、要支援学生への特別プログラムの実施、模擬試験・講義の実施により、100%の合格率を達成した。 ●沼津市内 77.3%、静岡県東部 86.4%の就職率となり、重点目標である沼津市内 70%以上の重点目標を達成した。 	2.397
Ⅳ 学生生活への支援	<ul style="list-style-type: none"> ●経済面では事務職員が奨学金や経済支援情報を積極的に提供し、専門実践教育訓練給付金制度の認可により社会人も学業を継続しやすくしている。精神・身体面では年次担当教員が出席・欠席を把握し、早期に声を掛け、必要に応じてカウンセラーと連携し対応している。身体面では健康診断や治療が必要な学生の状態を適宜確認し、受診を促し学習・実習への支障を最小に調整した。また感染症対策として周囲の状況を注視し、実習前の予防策としてマスク着用を推奨した結果、校内・実習期間中に感染症の蔓延は発生しなかった。 ●自主的な活動の支援として、ボランティア参加を促したが、試験や課題等により学生の活動参加が低調となった。今後、支援体制の再構築を検討していく。 	2.205
Ⅴ 管理運営・財政	<ul style="list-style-type: none"> ●防災訓練では、令和 6 年度に火災時の対応を現実的な教員・学生の動きに変更し、津波や集中豪雨への対策（ガイドライン作成）を強化している。Web171 災害伝言ダイヤルを継続的に体験させているが、ライフジャケットについては設置確認のみとなっていることから、着用体験を検討している。集中豪雨警報の増加に対応し、災害時マニュアルを見直し修正を行った。 ●学生満足度調査を年 2 回実施し、要望が満たせない項目については理由を文書により説明し、代替案を提示した。また、要望のうち実施可能な項目については、学校運営へ反映するなど、継続的な改善を行った。 	2.346

カテゴリー	自己点検・自己評価の概要	平均値
VI 施設設備	<ul style="list-style-type: none"> ●校内無線 LAN を整備しており安定したインターネット利用が可能となっている。講義・課題で検索・Google Classroom の活用が進み、1年次においては電子教科書を導入し、2年次については、新規購入テキストで可能な限り電子化を行っており、効果については今後、評価していく。 ●ICT 教材・シミュレーターを用いた臨床判断講義が実施しており、教員に対しても ICT 活用研修を継続している。 ●図書室は予算確保し、新書を購入する一方、学生はインターネット検索を優先している。情報の正確性の課題に対し、教員が部分的に書籍活用を勧めているが部分的な活用にとどまっている。 	2.338
VII 教職員の育成	<ul style="list-style-type: none"> ●学校の課題を踏まえた研修の実施と、学会参加等により得た知見を学校運営や講義実習内容へ反映している。研修では ICT 活用等のテーマにした内容を提供し、学会参加時には復命書・資料の回覧により情報の共有を行っている。 ●研修委員の働きかけにより講義を参観し、講評する機会が設けられ、他の教員の講義の参観は可能となっている。参加者は講義者に生産性のある評価を返し、振り返り・修正に活かしている。全体として、さらなる専門性向上のために時間確保を行っていく必要がある。 	2.064
VIII 広報・地域活動	<ul style="list-style-type: none"> ●学校訪問、進学説明会の積極的な参加により、受験生、入学生の増加に繋がっている。今後、更なる少子化、大学への進学率の上昇を踏まえ広報活動に取り組む必要がある。 	2.423